

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

記述式, 論述式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

大問2題。論述字数は1問あたり50~250字程度、論述問題は合計7問で、昨年より1問増えたが、総字数は950字程度と、昨年よりやや減少した。(I)では昨年にはなかった短答記述問題が含まれる。グラフ・地図などの資料を用いた問題は定着している。

その他トピックス

地形図(地理院地図)が初めて出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述式 論述式	アフリカ	問1 ウシの分布の特徴とチベット・ヒマラヤとの比較(100字程度, 50字程度) (b)は分布の多い地域と少ない地域の違いを気候・植生と対応させて説明する。(c)は高山地域であることと移牧がポイント。	標準
			問2 アンゴラとエチオピアの経済の推移とその背景(150字程度) 指定語句のうち人口, 労働力, 海外企業の誘致はエチオピアの説明, 資源への依存, 原油価格はアンゴラの説明で用い, エチオピアの経済発展の理由, アンゴラの経済発展と近年の低迷の理由を述べる。	標準
			問3 紛争鉱物の規制が困難な理由(100字程度) 多数の武装勢力がそれぞれ鉱山を支配していること, 紛争鉱物の流通を阻む仕組みができていないこと, 規制への取り組みが不十分なことなどをあげる。	難
II	論述式	地形図(日本の湖と都市)	問1 汽水湖の特色(150字程度) 汽水湖の定義, 豊かな生態系と漁業が盛んな一方, 水質汚染が進みやすいことなどを述べる。	やや難
			問2 近世の城下町における防衛機能(150字程度) 防御施設としての堀と水路, 道路形状における防御の工夫, 町割り全体における城, 武家地, 寺院の位置関係とそれらの防御施設としての役割などを述べる。	標準
			問3 地方都市における中心商店街の衰退要因(250字程度) 郊外化に伴う中心部の人口減少, 経営者の高齢化による廃業などの社会的要因, 車社会化による郊外の商業施設の発達と中心部の商店街がそれらと比べて不利な点などを述べる。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

教科書の内容を十分に把握して地理に関する知識を深めるとともに、論理的で簡潔な文章を書く訓練をしておこう。基本的な論述練習としては、地理用語や教科書の小項目を100～200字程度で説明したり、要約したりすることから始めるとよい。論述問題では出題の意図を把握することが重要になるが、そのためには、阪大の過去問だけでなく、他大学も含めて数多くの論述問題に触れ、さまざまなタイプの問題に取り組んでおく必要がある。書く内容についての知識とともに、文章を組み立てて答案に仕上げる練習も必要である。事実関係を説明させる問題だけでなく、統計・地図の読み取りから理由や背景を論述させる問題も出題されているので、地図や統計表の読み取りを含む論述問題は重点的にやっておこう。また、時には（I）の間3のように、教科書に記載の少ない事項や教科書からやや離れた事項も出題されているので、新聞などを読んで、世界各国についての時事問題や現代日本の地域問題・社会問題などにも関心を持っておこう。